※原則として書類等により証明可能な事実のみを記載する。

研　　究　　業　　績　　目　　録

(１) 履歴　 氏 名 ○ ○ ○ ○

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学 歴 |  職 歴 ・ 教 育 研 究 歴 等 |  学会及び社会における活動・研究上の受賞歴 |
| 昭和□年□月○○大学○○学部○○学科　卒業平成□年□月○○大学大学院修士課程○○研究科入学平成□年□月同　修了修士（○○学）（○○大学，修一二三四号）平成□年□月○○大学大学院博士課程○○学研究科　入学平成□年□月　同　単位取得満期退学平成□年□月　博士（○○学）（○○大学，博七八九号）※ 原則として元号年を用いる。※ 大学卒業から最終学歴まで記載※学歴を証明する書類としては、例えば学位記や修了証明書(複写可)等がある。  | 平成□年□月～平成□年□月　○○大学○○学部　助教平成□年□月～平成26年３月　信州大学教育学部　准教授平成□年□月　信州大学大学院教育学研究科担当　合判定平成□年□月　信州大学大学院教育学研究科担当　判定平成26年４月～現在　信州大学学術研究院　准教授（教育学系）［非常勤の職歴］　※常勤の職歴と分けて記載する。記載要領は上記に準ずる。［長期出張・長期研修等］※３ヵ月以上のもの。全額私費によるものは除く。※着任以後の職歴等を証明する書類としては、例えば人事異動通知書や講師依頼書等がある。※着任以前の職歴等については、採用時の人事資料で確認することも可能とする。 |  ［学会活動］　日本○○学会会員（平成□年□月～現在）　日本○○学会理事（平成□年□月～現在）　日本○○学会『○○学研究』編集委員（平成□年□月～平成□年□月）※学会は年度毎，役職は学会毎にまとめる。※所属している(していた)ことを証明する資料としては、例えば学会名簿・直近の会費振込証等がある。［社会活動］長野県○○評議会委員（平成□年□月～現在）　長野市○○専門委員会副会長（平成□年□月～平成□年□月）※「教育指導歴」に含まない社会活動を記載してもよい。※年度順に記載する。※活動を証明する書類としては、例えば委嘱状等がある。［研究上の受賞歴］○○学研究奨励賞（平成□年□月，日本○○学会）※受賞を証明する書類としては、例えば賞状(複写可)・通知書等がある。 |

（２）研究業績　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名　信　州　花　子

※「信州花子」の書き方の見本にしたがって記載する（本人氏名にアンダーラインを付す）。

※【著書】【論文】【報告】【学会発表】【その他】の５カテゴリに分けて記載する。

【著　書】■件　※各カテゴリの見出しの横に総件数を付記。

１　　　　　　　　　　　※各カテゴリ毎に１から始まる通し番号を付ける。

名　　称：□□の研究　　※コロン（：）の左の見出しはそのまま用いる。書き換えないこと。以下同じ。

単共の別：共著　　　　　発行年月：2010年５月　　　発行所等：□□出版（東京都）

備　　考：A5，200p　／　信州花子編，佐藤○○・田中○○・信州花子外15名の分担執筆（執筆箇所：第７章「○○の研究」, pp.100-120）

ＩＳＢＮ：4-1234-5678-9　　※DOI(Digital Object Identifier)が付された電子出版の場合，12.3456/aa789（DOI）とその旨をカッコ書きする。

※『備考』欄は次の事項を記載する：判サイズと全ページ数，区切りのスラッシュ（／），著者名と分担執筆のページ等の情報。

・電子出版の場合，印刷時の判サイズとそのページ数を記載する。

・著者名は，本人を含む３名までをフルネームで記載し「外〇名」と書く。編者・監修者は全員を記載する。

・分担部分が抽出不可能である場合，その理由と貢献内容を具体的に記載する。

・執筆部分が当該著書の本体において概ね10頁以上で，専門研究領域において学術的価値もしくは普及啓発的価値が認められると判断されるものは，「著書」として扱うことができる。執筆部分が概ね10頁の分量に満たないものは「その他」に記載する。

　・ISBNを有しない書籍は「その他」に記載する。

　・翻訳及び自費出版された書籍は，ISBNを有し公刊されていることを条件として「その他」に記載する。ただし，専門研究領域において学術的価値もしくは普及啓発的価値が認められると判断される場合，「著書」として扱うことができる。

 ・小・中・高等学校等の教科用図書（教科書）の作成・編集は「社会活動」として記載する。その成果物としての教科書は「著書」または「論文」として扱わずに「その他」に記載する。

２

名　　称：〇〇の探究

単共の別：共著　　　　発行年月：2010年７月　　　　発行所等：〇〇書房（京都市）

備　　考：A5, 150p　／　信州花子・〇〇太郎（執筆箇所：序章, pp.1-10; ３章, pp.30-40; ５章～８章, pp.60-150）

ＩＳＢＮ：4-9876-5432-1

【論　文】■件

　　※審査付きのものは通し番号を○で囲む。

名　　称：□□に及ぼす□□の効果の検証

単共の別：共著　　　　発表年月：2010年３月　　　　発表誌等：○○学研究，第□巻，第□号（日本□□学会）※学会名・機関名をカッコ書き。

備　　考：B5, pp.30-40　／　○○太郎・○○正夫・○○みどり外２名（担当部分：△△△△）

※定期刊行学術誌に掲載されている学術誌論文を「論文」とするが，選集や論文集のような書籍体の刊行物（独立した書名を有するもの，ISBNが付されたもの）に掲載されている論文形式のものも「論文」として記載することができる（分担執筆ページを明記する）。なお，明文化されている審査手続きを経て掲載可とされたものであれば，審査付き論文として扱うことができる。
・執筆者が３名を超える場合，原本記載順の通りの３名までを記載し「外□名」と書く。本人が表記されなくてもよい。

・共著の場合，『備考』欄の『担当部分：』に本人の執筆ページを記載，または担当・貢献内容を具体的に書くこと。

・印刷中の場合，『発行年月』欄に「印刷中」と書き，『発表誌等』欄に掲載予定巻・号を書き，『備考』欄にスラッシュ（／）の区切りを入れて「／掲載証明あり」または「／採択通知あり」などと記載する。

・ＤＯＩを付されている場合，『備考』欄にスラッシュ（／）の区切りを入れて，「／　DOI:12.3456/aa789」のように記載する。

　・学会プロシーディングスは，その内容および形式により「論文」または「学会発表」として扱う。

　・電子媒体として発行された学会誌・大会論文集等については，当該ダウンロードサイトがWeb上に存在すること，当該業績のデジタルオブジェクト識別子（DOI）が判明していること，学会・大会主催組織より提供された業績を証明できる紙媒体（別刷り）が存在すること，または学会・大会主催組織より提供された電子メモリ（CD，USBメモリ等）が存在することのいずれかが求められる。なお，電子媒体の判サイズの記載は必要ない。

２　※審査付き業績に相当すると判断するものには通し番号にアンダーラインをひき，『備考』欄にその判断理由を具体的に記載。

名　　称：□□地域における○○の調査

単共の別：共著　　　　発表年月：2010年５月　　　　発表誌等：□□紀要，第□巻，第□号（〇〇研究センター）

備　　考：B5, pp.10-20　／　○○太郎・信州花子　／　信州大学大学院教育学研究科長賞 受賞（平成□年□月，信州大学大学院教育学研究科）／　左記の賞を選考を経て受賞したことにより審査付き業績に相当すると判断する。

３

名　　称：月夜の水面

単共の別：単独　　　　発表年月：2011年11月　　　　発表誌等：□□美術館第一展示室　　※『発表誌等：』を『発表会場：』等に適宜変更可。

備　　考：□□cm×□□cm，水彩画

※「論文に相当する業績」には，たとえば作品，演奏，競技歴，ソフトウェアの開発など，国際もしくは全国レベルの業績を記載することができる。作品，演奏，競技歴，ソフトウェアの開発などにおいて，地方レベルの業績は「その他」に記載する。

・演奏・作品等の場合，『単共の別』欄は「共同」「共作」「共演」等の語句を適宜用いる。

・演奏・作品等の場合，『備考』欄に当該業績を特定できる情報を記載する。

※｢論文に相当する業績｣を証明する書類としては、例えば賞状(複写可)・通知書等がある。

４

名　　称：意匠登録証　登録第3000001号　／　意匠に係る物品　キーボード

単共の別：単独　　登録年月：2015年１月15日　　意匠番号：特許庁・意匠登録第2018123号

備　　考：意匠権者，国立大学法人信州大学　／　意匠の創作をした者，○○太郎

※ 特許権・意匠権等は，審査を経て権利化されたものは「論文に相当する業績」として記載できる。出願のみで審査を経ていない特許出願等や審査を要しない実用新案権等は，「その他」に記載する。なお，対象となる特許権・意匠権等と同内容の論文がある場合には論文を優先し，特許権・意匠権等は「その他」に記載する。

・名称には，文献番号を記載し，登録番号には，意匠権は意匠番号，特許権は特許番号を記載する。

・「特許証」の場合，「名称」の欄に「発明の名称」，「備考」の欄に「特許権者」「発明者」を書くこと。

・「意匠の創作をした者」が複数の場合，「単共の別」の欄に「共同」と記載し，「備考」の欄に共同した者全員の名前を書き(本人の名前に下線を引く)，本人の分担または貢献内容を明確に書くこと。

【報　告】■件

１

名　　称：実践型○○教育プログラムの開発

単共の別：共著　　発行年月：2010年８月　　発表誌等：平成21～23年度科学研究費補助金（基盤研究(C),課題番号246810）の研究成果報告書

備　　考：A4, 300p　／　研究代表者：○○太郎，研究分担者：△△△△，○○みどり，信州花子外□名の分担執筆（執筆箇所：第４章「各教科における試作プログラムの実用化検証」, pp.30-40，信州花子・○○みどり著，信州花子は研究企画・実践に参画しデータ分析と全体執筆を担当）

※「報告」は「論文に相当する報告書等」として解釈し，論文に相当する学術的内容を有する報告等を記載することができる。なお，論文に相当する内容に至らないと判断される報告は，「その他」に記載する。

・分担執筆の箇所も共著の場合，著者名を原本記載順の通り書き（上の「信州花子・○○みどり著」のように），本人担当内容を具体的に記載する。

【学会発表】■件　※採用人事では全件記載する。それ以外の人事では，全体が相当数になる場合，過去５年間のもののみの記載でよい。その場合，■件（過去５年間）と記載する。

１

名　　称：日本と□□国における□□の比較研究

単共の別：共同　　　発表年月：2010年８月　　　発表場所：□□学会第□回大会（□□会館，□□県□□市）　※大学以外は住所をカッコ書き。

備　　考：発表論文集（[http://www.&&&&&&.ac.jp/&&&&&](http://www.&&&&&&.ac.jp/%26%26%26%26%26)）, 掲載番号 7-123　／　〇〇太郎・〇○みどり・信州花子外３名（信州花子は研究企画の協議と調査結果の考察に参画）

※発表資料がWebサイトや電子資料の場合，当該サイトのＵＲＬやＣＤ等のラベルの印刷事項を現物照合可能なように記載する。

※発表者が３名を超える場合，発表資料の記載順の通りに３名までを記載し「外□名」と書き（本人が表記されなくてもよい），本人の担当内容を具体的に記載する。

【その他】■件　※主要なものを記載する。件数は記載した件数の合計数を書く。

※著書，論文，報告，口頭発表の記載要領にしたがって記載する。

※同種の業績が複数ある場合，下のような菱形カッコの見出しを用いて適宜サブカテゴリを作ってもよい。

　その際，業績の番号はサブカテゴリ毎に１から始め，サブカテゴリの見出しの横に「小計 全■件」と当該カテゴリの総件数を付記すること。

例）＜参考著書＞　＜参考論文＞　＜参考報告＞　＜事典・辞書＞　＜教科用図書＞　etc.

【外部資金】■件

１

資金の名称：科学研究費補助金　基盤研究Ｂ　12345678　※出資機関・団体を証明できること。科研費は種目名と課題番号を記載する。

期　　　間：平成25年度～平成27年度

研究課題名：長野県の自然を活かした高大接続教育プログラムの開発

研究者氏名：研究代表者 ○○太郎（信州大学），研究分担者 ○○みどり，○○まさお，信州花子外10名　※単独の場合は本人名のみ記載。

２

資金の名称：松本市（長野県）

期　　　間：平成27年度

研究課題名：観光振興アンケートの制作と実施・分析

研究者氏名：信州花子

※ここまで　（２）研究業績おわり